

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年3月22日

報告書名：平成28年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成28年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2018年3月22日

事業名	初等教育改善事業 Project for Improvement of Primary Education	
事業対象地	アフガニスタン カブール市およびナンガハル県	
事業期間	事業期間：2017年2月1日～2017年12月31日	
公的資金種別	平成29年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出・返還金	総支出：86,375,438円（返還額：1,505,058円）	
プロジェクト 目標および、その 達成度	「カブール市およびナンガハル州の児童の学習環境の改善」を目的にこの事業を実施した。学校建設、図書室改善活動を通して、415名が安全で快適な環境で学習できるようになり、32,873人の児童と906人の教員が学校での図書室が利用可能となった。そして、ナンガハル州では、子どもの学校外教育活動を通して、ジャララバード市内の子ども達延べ34,583人が学校外教育へアクセスでき、不就学児童40人が公立小学校1年生と同様のカリキュラムを修了することができた。	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 教室不足の解消を目的に、カブール市内にある Shams Tabriz 校に、教育省建設局の学校建設設計基準に従った1階建て8教室の校舎と水洗トイレ5室を建設した。 その後、学校で使うための備品として、各教室に児童用の3人掛け机・椅子を18個と教員用の机・椅子、教材保管用の戸棚を設置した。12月17日に竣工式を実施し、建設した校舎をカブール市教育局に譲渡した。	受益者数 648人の児童
	(2) 学校図書館改善活動 対象校10校に対して、学校図書室の設置、対象校1校あたり、現地で出版した絵本および紙芝居と日本から郵送した図書10タイトルを含む合計830冊を供与した。 建設事業対象校を除く22校において、「一般教員研修」と「図書室担当教員研修」をそれぞれ2回実施した。	延べ23校 32,873人の児童と 906人の教員
	(3) 子どもの学校外教育活動 ジャララバード市内の子ども図書館を運営し、市内の児童に対して学校外教育の機会を提供した。この子ども図書館では、図書の閲覧や貸し借りだけでなく、絵画や工作、縫製、詩の朗詠などのプログラムを提供しており、月に1度、祝日や利用者たちの誕生日を祝う特別行事も実施した。	34,583人

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年3月22日

報告書名：平成28年度 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

<p>成果</p>	<p>(1) 校舎建設活動</p> <p><u>「12クラス415名の児童が安全で快適な教室で学習できている。」</u></p> <p>建設した6教室には、3人掛けの机・椅子をそれぞれ18個供与している。そのため、6教室で324人(1教室あたり54人)の児童が同時に学習でき、2部制では648人の児童が安全で快適な教室で学習できる見込みである。</p> <p>(2) 学校図書館改善活動</p> <p><u>「対象校23校において、1校あたり月300冊以上の図書が児童に貸し出されている。」</u></p> <p>モニタリングの結果、1校あたり月348冊(目標比率116%)の図書が貸し出されていた。ナンガハル州の対象校14校では月平均440冊(目標比率147%)の本が貸し出されており、この指標を大きく上回る一方で、カブール州の建設対象校を除く8校では月平均107冊(目標比率37%)に留まった。全体では対象校の64%の学校で指標を達成している。</p> <p>(3) 子どもの学校外教育活動</p> <p><u>① 1日あたり120人の児童が学校外教育活動に参加している。</u></p> <p>事業実施期間を通して、34,583人が子ども図書館を利用した。1日あたりの利用者は156人であり、この指標を上回っている。</p> <p>この図書館はパキスタンに接するナンガハル州に位置するため、難民帰還が本格化した7月以降は帰還民の子どもたちの利用者が急増した。特に学校に行けない子どもの利用や、日中、路上で働く合間に図書館に立ち寄り利用する子どもの姿が見られた。</p> <p><u>② 不就学児童35名が教育の機会を得ている。</u></p> <p>4月から12月の9か月間、不就学児を対象に特別教室を開講し、8歳から12歳の子どもたち40人が参加し、これを修了した。これらの活動を通じた成果は、SDGs4-1「初等教育のアクセスと質の改善」の観点から、40名の不就学児童が初等教育第一学年と同等の内容を学習でき、学校へ編入することが期待されていること、4-5「女子、脆弱層の教育格差の改善」の観点からは、学校外教育活動に参加した女子児童(年間のべ17,486人)のコミュニケーションや意見表明の機会が増加したことが挙げられる。</p>
<p>課題と対応策</p>	<p>活動(2)に関して、以下のような課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 図書館担当の不在による図書館が適切に運営されていない <p>担当職員が決まらず、ボランティアで図書館運営を補助している例や校長が図書館運営をしている例が見られた。このような学校に関しては、教員が図書室の運営まで手が回らず、図書室の開館が不定期であったり、利用されているものの正確に記録が取れていない等の課題が挙げられている。活動レベルで改善策を助言すると同時に、これらの状況を踏まえて、次年度の研修内容を再度検討している。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 図書管理の課題 <p>8校中、3校の学校では、図書の紛失や破損が発覚後、校長あるいは担当者が図書館を施錠しており、自由な貸し出しが行えていなかった。これらの学校では、モ</p>

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン

日付：2018年3月22日

報告書名：平成28年度 日本 NGO 連携無償資金協力 完了報告書

	ニタリング時に図書管理が簡単な活動を提案した。具体的には、担当者がいる間だけ図書室を開放することや、教員が図書室から図書を持ち出し、各教室で読み聞かせを行うといった活動から開始した。
--	---